

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成24年2月14日
【四半期会計期間】	第60期第3四半期（自平成23年10月1日至平成23年12月31日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画部部长 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7477(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画部部长 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期 第3四半期 連結累計期間	第60期 第3四半期 連結累計期間	第59期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年12月31日	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高(千円)	14,169,948	14,699,675	18,432,218
経常利益(千円)	1,310,381	1,243,101	1,314,802
四半期(当期)純利益(千円)	644,688	611,252	580,226
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	620,498	622,103	557,856
純資産額(千円)	5,836,667	6,136,694	5,774,005
総資産額(千円)	12,899,261	13,649,366	12,316,592
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	62.15	58.92	55.93
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	45.2	45.0	46.9

回次	第59期 第3四半期 連結会計期間	第60期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日
1株当たり四半期純利益金額(円)	36.35	37.68

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 平成22年4月1日付で、普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。
5. 第59期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災の影響による自粛ムードは薄らぎ、消費マインドは徐々に回復の兆しが見られるものの、消費者の節約志向の浸透などにより、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境のもと、当社グループは、経営理念の具現化に向け『熱狂的ファン創り』の徹底実践と強固な経営基盤の構築に向け『新成長エンジン創り』をテーマに、具体的対策に落とし込み、刻々変化する市場動向と顧客ニーズを的確に捉えながら、全従業員の総力を結集し、積極果断に事業施策を推進いたしました。

業績面は、期初であります4月が、震災の影響を大きく受け、大幅な減収・減益を余儀なくされた一方、5月以降は、新規出店及び新商品の投入、販促活動の強化など早期の業績回復に向けた事業施策の積極展開により、回復基調で推移いたしました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は14,699百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益は1,279百万円（前年同期比2.5%増）となりました。一方、経常利益は、受取地代家賃の減少及び破産更生債権等に対する貸倒引当金繰入額の計上などにより1,243百万円（前年同期比5.1%減）、四半期純利益は、法人税法等の改正に伴う見積実効税率の変更などにより法人税等が増加し611百万円（前年同期比5.2%減）となりました。

なお、当社グループは、東京市場の事業の再構築を図るため、平成23年12月15日をもって子会社である株式会社シュクレイ（東京都港区）を設立（当社100%出資）いたしました。当該子会社は、平成24年1月31日をもって解散した製造子会社である株式会社つきじちとせより事業の一部を譲受け、平成24年2月1日より菓子の販売事業を開始いたしました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

#### ケイシイシイ

「ルタオ」ブランドを擁するケイシイシイは、新規出店では平成23年5月に小樽市で6店舗目となる大型新店舗「パトス」、7月には新千歳空港店をオープンしました。また、プロモーション展開では、有名タレントを起用したテレビCMの放映、テレビ番組との共同開発企画などを推進いたしました。商品面では新商品「シンデレラデフロマージュ」、「ルタオプレミアまあある」を投入し、通販企画の充実など様々な対策強化に取り組みました。また、11月に紹介されたテレビ放映効果も寄与しクリスマス商戦が好調に推移いたしました。その結果、売上高は5,418百万円（前年同期比8.5%増）と前年同期を上回った一方、営業利益は新規出店の初期費用や販促費用が増加したことなどにより484百万円（前年同期比11.8%減）と前年同期を下回りました。

なお、9月に札幌三越店及びアマイワナ店を退店いたしました。

#### 寿製菓

寿製菓は、関東圏の代理店向け売上が低迷した一方、地元山陰地区では「白ウサギフィナンシェ」がPR展開により続伸し、また、「ラングドシャ」ライン商品を中心にグループ向け売上が堅調に推移いたしました。その結果、売上高は5,235百万円（前年同期比1.9%増）、営業利益は428百万円（前年同期比10.7%増）となりました。

#### 販売子会社（11社）

販売子会社（11社）は、交通機関市場を中心に販売強化に努め、名古屋地区での新商品「小倉トーストラングドシャ」、関西地区でのコンディトライ神戸の生ギフト展開、宮崎地区での「宮崎マンゴーラングドシャ」などが堅調に推移した結果、売上高は3,238百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益は177百万円（前年同期比52.9%増）となりました。

#### 九十九島グループ

九十九島グループは、直営店舗「グランマーケット店」の退店（平成23年5月）に伴う売上減少要因があった一方、主力商品のPR展開や新商品「博多創菓子 はかたんもん」の拡販などに努めた結果、売上高は2,225百万円（前年同期比2.8%減）、営業利益139百万円（前年同期比2.3%増）となりました。

#### 但馬寿

但馬寿は、震災の影響による期初の売上高の落ち込みや黒豆茶通販が低調に推移した結果、売上高は776百万円（前年同期比5.0%減）、営業利益は55百万円（前年同期比25.1%減）となりました。

#### つきじちとせ

つきじちとせは、早期の業績回復を目指すべく、平成23年6月に「東京ミルクチーズ工場」及び「コートクールシュクレ」の2つの洋菓子系ブランドを新たに立上げ、羽田空港催事の強化に努めました。また、新規出店では、8月にルミネ新宿店、10月にルミネ有楽町店、12月には東京駅に出店し、売上拡大に取り組みました。その結果、売上高は615百万円（前年同期比28.1%増）、営業利益は2百万円（前年同期は営業損失37百万円）となりました。

その他

その他は、損害保険代理業が含まれております。売上高は3百万円（前年同期比14.9%減）となり、営業損失は0百万円（前年同期は営業利益0百万円）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ1,332百万円増加し、13,649百万円となりました。流動資産は5,999百万円となり、1,118百万円増加いたしました。主な要因は、現金及び預金の増加（251百万円）、季節変動要因による受取手形及び売掛金の増加（651百万円）、商品及び製品の増加（126百万円）などによるものです。固定資産は7,649百万円となり、214百万円増加いたしました。主な要因は有形固定資産において、減価償却費計上による減少（394百万円）があった一方、新店舗出店などの設備投資（575百万円）を実施したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末と比べ970百万円増加し7,512百万円となりました。流動負債は5,210百万円となり649百万円増加いたしました。主な要因は支払手形及び買掛金の増加（347百万円）、短期借入金の増加（300百万円）による増加要因と1年内返済予定の長期借入金の減少（139百万円）の減少要因によるものです。固定負債は2,302百万円となり320百万円の増加となりました。主な要因は、長期借入金の増加（343百万円）によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ362百万円増加し、6,136百万円となりました。主な要因は、四半期純利益（611百万円）の計上による増加、配当金の支払い（259百万円）による減少などです。この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ1.9ポイント減少し、45.0%となりました。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、23,843千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、ケイシイシイで店舗を新規出店したこと、各セグメントで新卒採用を行ったことなどの要因により、グループ全体の従業員数は前連結会計年度末799人から61人増加し860人となっております。また、グループ全体の臨時従業員数は前連結会計年度末553人から31人減少し522人となっております。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第3四半期連結累計期間に完成したものは次のとおりであります。

会社事業所名	所在地	セグメントの名称	設備の内容	投資額 (千円)	完了年月	完成後の 増加能力
(株)ケイシイシイ バトス	北海道小樽市	ケイシイシイ	新店舗建設	333,303	平成23年5月	(注)2

(注) 1. 金額には消費税等を含めておりません。

2. 当該計画は新店舗の出店のため、生産能力の大幅な増加はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,400,000
計	30,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,373,840	10,373,840	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	10,373,840	10,373,840	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日	-	10,373,840	-	1,217,800	-	550,269

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから直前の基準日（平成23年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 10,372,800	103,728	-
単元未満株式	普通株式 840	-	-
発行済株式総数	10,373,840	-	-
総株主の議決権	-	103,728	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が6,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数60個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎2028	200	-	200	0.00
計	-	200	-	200	0.00



## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,067,291	2,318,931
受取手形及び売掛金	1,718,193	2,369,969
商品及び製品	434,018	560,228
仕掛品	23,784	37,616
原材料及び貯蔵品	311,531	387,435
その他	342,959	331,349
貸倒引当金	15,957	5,595
流動資産合計	4,881,819	5,999,933
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	3,008,182	3,147,322
機械装置及び運搬具(純額)	505,174	502,123
工具、器具及び備品(純額)	172,015	221,283
土地	2,571,639	2,571,639
リース資産(純額)	67,687	56,177
建設仮勘定	5,886	1,067
有形固定資産合計	6,330,583	6,499,611
<b>無形固定資産</b>	122,646	115,281
<b>投資その他の資産</b>		
その他	1,033,736	1,153,883
貸倒引当金	52,192	119,342
投資その他の資産合計	981,544	1,034,541
固定資産合計	7,434,773	7,649,433
資産合計	12,316,592	13,649,366
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	609,372	956,896
短期借入金	2,100,000	2,400,000
1年内返済予定の長期借入金	685,898	545,998
未払法人税等	202,957	296,015
賞与引当金	358,631	183,847
その他	603,609	827,390
流動負債合計	4,560,467	5,210,146
<b>固定負債</b>		
長期借入金	913,735	1,256,794
退職給付引当金	717,011	734,782
役員退職慰労引当金	120,638	93,339
その他	230,736	217,611
固定負債合計	1,982,120	2,302,526
負債合計	6,542,587	7,512,672

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	1,323,161	1,323,161
利益剰余金	3,243,333	3,595,245
自己株式	239	313
株主資本合計	5,784,055	6,135,893
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,050	801
その他の包括利益累計額合計	10,050	801
純資産合計	5,774,005	6,136,694
負債純資産合計	12,316,592	13,649,366

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	14,169,948	14,699,675
売上原価	7,221,874	7,314,862
売上総利益	6,948,074	7,384,813
販売費及び一般管理費	5,699,423	6,104,894
営業利益	1,248,651	1,279,919
営業外収益		
受取利息	637	336
受取配当金	2,745	2,762
受取地代家賃	54,870	14,790
違約金収入	25,000	-
その他	20,860	27,354
営業外収益合計	104,112	45,242
営業外費用		
支払利息	39,876	34,570
貸倒引当金繰入額	-	40,450
その他	2,506	7,040
営業外費用合計	42,382	82,060
経常利益	1,310,381	1,243,101
特別利益		
固定資産売却益	-	247
特別利益合計	-	247
特別損失		
固定資産売却損	36	67
固定資産除却損	4,601	12,745
投資有価証券評価損	-	30,458
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	49,357	-
特別損失合計	53,994	43,270
税金等調整前四半期純利益	1,256,387	1,200,078
法人税等	611,699	588,826
少数株主損益調整前四半期純利益	644,688	611,252
四半期純利益	644,688	611,252

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	644,688	611,252
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	24,190	10,851
その他の包括利益合計	24,190	10,851
四半期包括利益	620,498	622,103
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	620,498	622,103

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
税金費用の計算	税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)	
第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。	
(法人税率の変更等による影響)	
「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の見積実効税率は従来の44.6%から49.1%となります。この税率変更により、未払法人税等は53,688千円増加し、法人税等は同額増加しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当第3四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
受取手形	- 千円	9,848千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
減価償却費	394,256千円	439,681千円
負ののれんの償却額	662	-

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	259,341	50.00	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	259,340	25.00	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社 (11社)	九十九島 グループ	但馬寿	つきじ ちとせ	計
売上高							
外部顧客への売上高	4,578,196	3,687,223	3,087,881	2,085,527	265,593	461,985	14,166,405
セグメント間の内部 売上高又は振替高	417,305	1,448,565	469	203,132	551,699	18,339	2,639,509
計	4,995,501	5,135,788	3,088,350	2,288,659	817,292	480,324	16,805,914
セグメント利益 (は損失)	549,202	386,824	116,119	136,688	74,066	37,524	1,225,375

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	3,543	14,169,948	-	14,169,948
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	2,639,509	2,639,509	-
計	3,543	16,809,457	2,639,509	14,169,948
セグメント利益 (は損失)	377	1,225,752	22,899	1,248,651

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれております。

- セグメント利益(は損失)の調整額22,899千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額315,613千円、セグメント間取引消去額9,686千円、たな卸資産の調整額 23,258千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 279,142千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。
- セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						
	ケイシイ シイ	寿製菓	販売子会社 (11社)	九十九島 グループ	但馬寿	つきじ ちとせ	計
売上高							
外部顧客への売上高	5,017,963	3,623,051	3,237,916	1,980,347	254,488	582,896	14,696,661
セグメント間の内部 売上高又は振替高	400,683	1,612,105	446	244,868	521,760	32,364	2,812,226
計	5,418,646	5,235,156	3,238,362	2,225,215	776,248	615,260	17,508,887
セグメント利益 (は損失)	484,143	428,399	177,580	139,884	55,497	2,320	1,287,823

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	3,014	14,699,675	-	14,699,675
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	2,812,226	2,812,226	-
計	3,014	17,511,901	2,812,226	14,699,675
セグメント利益 (は損失)	199	1,287,624	7,705	1,279,919

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業が含まれております。

2. セグメント利益(は損失)の調整額 7,705千円は、当社とセグメントとの内部取引消去額370,372千円、セグメント間取引消去額10,084千円、たな卸資産の調整額 21,970千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 366,191千円であります。全社費用は、主に提出会社におけるグループ管理に係る費用であります。

3. セグメント利益(は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(有価証券関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	62円15銭	58円92銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	644,688	611,252
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	644,688	611,252
普通株式の期中平均株式数(株)	10,373,631	10,373,564

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月7日

寿スピリッツ株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 憲次 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 水野 雅史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成23年10月1日から平成23年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。